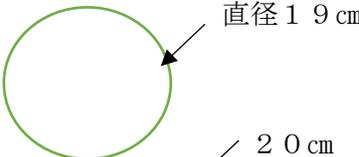
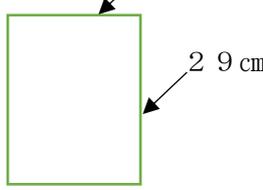


自作教具の活用事例

<p><b>【作品名】</b> 「なんじ？なんぶん？」時計</p>	<p><b>【学校名】</b> 日立市立仲町小学校</p>
<p><b>【活用できる領域・教科等】</b> 算数</p>	<p><b>【制作者名】</b> 小林 美代</p>
<p><b>【制作の意図】</b> 時間や時計に関する学習が苦手な児童が多いので、この教具で短針と長針の動きを別々に見る練習をし、「何時何分」と正確な時刻を読むことができるようになる。</p>	<p><b>【使用の方法】</b> 時計の学習で時刻をつくったり読んだりして練習する。</p>
<p><b>【制作上の工夫】</b> 「何時」を表す数字を明記した時計のシートを用意し、画用紙に貼ってからラミネート加工する。ラミネート加工した短針と長針を重ねて中心に穴を開け、割ピンで留める。 シートの時計の図には短針の動きを色で示し、「ここからここまでは3時だよ」というように、「何時」を読み取りやすくするようにしてある。 また時計の図内には分を表示して、目盛りの線もつけ、「何分」という長針の動きも捉えやすくした。</p>	<p><b>【見取り図】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート（西洋紙）  直径 19 cm</li> <li>・画用紙  20 cm 29 cm</li> <li>・短針（赤）→ 4.5 cm</li> <li>・長針（青）→ 7.5 cm</li> </ul>
<p><b>【写真】</b></p> 	<p><b>【使用効果と応用発展】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なんじ？なんぶん？」時計を活用することで、時計の学習に対する苦手意識が減る。写真は「11時57分」を示しているが、短針が12に近いので、うっかり「12時」と読んでしまうところ、短針の先が黄緑色の範囲(11時)に入っていることに気付き、「11時」と正しく読むことができる。</li> <li>・ボードを常時掲示したり、ボードを縮小してカード形式にしたりすると、個別に習熟していくことが期待できる。</li> </ul>
<p><b>【材料・材質・部品等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート（西洋紙）</li> <li>・画用紙</li> <li>・ラミネートフィルム</li> <li>・割ピン</li> </ul>	